

## 第36回クリーンセンター滋賀環境監視委員会会議概要

1. 日時 平成29年8月1日(火) 14:15～16:30

2. 開催場所 クリーンセンター滋賀 研修室 他

3. 出席者 環境監視委員

学識経験者:金谷委員長

住民代表:中島(茂)、中島(常)委員、

東委員、福井委員、

渡邊委員、中島(仁)委員

事業者:乾委員

滋賀県:明石委員

甲賀市:酒徳委員、中島委員、山下委員

公社:岡治委員

事務局:公益財団法人滋賀県環境事業公社

小林副理事長、河合所長、内藤副所長、  
木村参事、奥野次長、清水主幹



4. 議事概要

(1). あいさつ(公社 小林副理事長)

(2). 活動内容報告

1)水質調査結果について.....資料1

2)硫化水素自主測定結果について.....資料2

3)搬入実績について.....資料3

4)放射線の自主測定結果について.....資料4

### 【主な意見および質疑】

(水質検査結果について)

・全窒素濃度が甲賀市との協定で定めた値を超過したとのことだが、下水処理施設への影響はあるのか。

→協定値 60mg/L に対し、4 月が 62mg/L、5 月が 62mg/L、6 月が 64mg/L であり、下水処理施設について直ちに影響があるとは考えていないが、協定値は甲賀市との約束であり、この値を超えたことは問題であると認識している。なお、対策の成果が 7 月は 39mg/L と低下した。

・全窒素濃度の協定値超過の原因は何か。

→昨年度の 9 月に生物処理工程各槽に土砂を多く含んだ汚泥が大量に蓄積していることが判明し、先に汚泥を引き抜いた後、メタノールを添加することにより、生物処理機能を回復させることを計画していた。汚泥引抜には時間がかかるためその間、活性炭吸着による処理を暫定対策と考えていたが全窒素の除去能力の低下が想定より早かったこと、汚泥の引き抜きによる一時的な負荷が増加したため超過したのと考えている。

・全窒素濃度の低減のためにメタノールを注入しているとのことであるが、メタノール注入量に関するマニュアルを作成する必要があると考えるがどうか。

→現在は運転状況を見ながら最適な管理ができるようデータを収集しており、マニュアルを作成する前の段階と考

えている。

- ・第1凝集沈殿槽は現在使用していないとのことであるが、これを使用すれば土砂を取り除けるのではないか。  
→この槽は、凝集剤を使用して、配管等に付着するカルシウム等のスケールを取り除くためのものであり、スケールを発生させるような廃棄物を受け入れていないことから使用していない。また、この槽には土砂等を取り除く機能がない。
- ・市への報告が遅延したことは遺憾である。水質分析の結果についての報告も含めて、その他の異常事態が発生した場合は、速やかに報告されたい。  
→協定値超過に関して、全窒素等について処理水質が協定値を下回り安定するまでの間、週1回水質分析を実施し、その速報値を把握次第甲賀市に報告することとしたほか、その他に異常値が検出された場合には、速やかに甲賀市および地元へ報告していく。
- ・全窒素等について毎日測定することはできないのか。  
→当センターには全窒素等についての分析機器がなく、分析は外部委託しており、これまでの月1回の分析を週1回に増やし、この結果と、浸出水処理施設で計測できるデータを組み合わせて適切な運用を図りたい。

(硫化水素自主測定結果について)

- ・周辺調査の結果に風向きデータのデータも付けてほしい。  
→風向きについても測定しているのでそのデータも記載する。
- ・資料は硫化水素対策前のガス抜き管内のデータなので、脱硫対策後について、作業員への健康影響の有無や、外部へ臭気が出ないことがわかる様に硫化水素濃度のデータを示してほしい。  
→硫化水素対策実施直後の濃度は0ppmであるが、脱硫剤の効果が低下してくると、硫化水素濃度が高くなり、再び対策を実施しているというのが現実であるが、データの示し方については工夫する。

(搬入実績について)

- ・平成27年度と比べ平成28年度に石膏ボードの搬入量が減っているのはどういう理由か。  
→事業所を訪問した際に、石膏ボードの搬入量の削減要請や、リサイクルを紹介している。事業所訪問を今後も続け、石膏ボードの搬入量を減らしたいと考えている。
- ・県内に石膏ボードのリサイクルをしている事業所はあるのか。  
→県内にも数社あるが、選別の徹底を図る必要があるため、排出者への要請が課題となっている。

(埋立地上部から現在の埋立状況を視察)

